

教職大学院 NEWS



三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻

第3号 H29.6月発行

第1回教職大学院説明会を実施しました!

5月20日(土)に教職大学院の第1回説明会を実施しました。説明会には、小・中・高の現職教員の方や教育学部4年生の方にご参加いただきました。参加された方は、教職大学院の説明を熱心に聞かれ、その後の質疑・応答では、学習内容や入試、大学院での生活などの具体的な質問をされるというような様子で、三重大学教職大学院への期待や学ぼうという熱意が伝わってきました。また、本説明会の実施に際して、本年4月に本教職大学院に入学された院生(第1期生)に、教職大学院に興味を持たれる方々に向けて、メッセージを書いていただきました。それらを、説明会当日に紹介させていただきました。ここでは、メッセージの一部を紹介させていただきます。

「学べる喜び」それが入学後に最も強く感じていることです。様々な年齢、校種教科の現職教員の方々や、これから先生を目指す若い新卒の方々と共に学びあうことがとても新鮮です。これまでの教職経験の中で、なんとなく感覚で身につけてきたものが、理論だてて学ぶことができます。大学の先生方から手厚い支援をいただき、とても快適な環境で学ぶことができます。

教職大学院の魅力は、すばらしい先生方に囲まれ、専門性の高い授業を受けられるところです。レポート課題の提出は正直言って大変ですが、さまざまなことをこなせ、自分の力がアップします。自分の学修テーマについては、指導教官を中心に全員の先生方からサポートが受けられます。テーマを明確にし、少しずつ内容を深めていける学習ができます。

教職大学院では、主に午前中に講義があり、そこではグループになってマネジメント理論についてや生徒指導における課題など、教育活動全般に関わる内容についての学びを深めています。これまで現場にいると日々の忙しさでじっくり教育について考える時間すらなかったのですが、ここへ来てからは、これまで背負い続けてきた思い荷物を下し、時間をかけて教育とは何かを考えることができている。こうして将来の三重の教育についてじっくり考える仲間がこの先どんどん増えていってくれることを期待しています!!

理論と実践、論理的な思考・探求など、今、世間で言われている最先端がここで学べます。もちろん自律的に学ぶことは必要ですが、学びたいこと、研究したいことがあるならおすすめできると思います。来年、一緒に勉強できることを楽しみに待っています。

「学び」について勉強したい。学校運営や授業改善、理論についてもっと勉強したいけど、学校現場にいるとなかなか時間がありませんよね。しかし教える側も学ぶことをやめてはいけません。一度立ち止まって、自分の教育実践について考え直したい。多角的な見方で教育現場を考えたいときに、この教職大学院では多くの仲間と「学校」について「学び」について一緒に勉強していけます。ぜひ一緒に勉強していきましょう。

視野がとつともなく広がります。課題(宿題)は多いですが、力を入れてやればやるほど、新たな気づき、学びが得られます。

現職学生の方々と共同学習により、現場の魅力、大変さなどを聞き、学ぶことができます。学部新卒生、現職学生、教職大学院の先生方が一丸となって、日々学びあいです。実習や公開研究会などの情報提供が多くあり、実際の現場に関わる機会がたくさんあります!

三重県の教員採用試験の内定を2年間留保できる唯一の大学院です。就職が決まっているという安心のもと通うことができます。新卒で勤務していたらできない体験ができます。現職の先生との深い交流ができるだけでなく、学会や県外の学校での研究会に時間の余裕をもって参加する機会がたくさんあるのでとても勉強になります。

授業をはじめ様々な場で、自分の思いや考えを表現できる機会が豊富にあります。また、現職の先生方や学部新卒生との仲間の意見を交換することで、今まで当たり前だと思っていたことについて深く考えるきっかけになったり、自分の考えを整理することができたりします。大学の先生方が非常に丁寧に接して下さり、先生方との距離が近く感じられることも魅力のひとつだと思います。

今後、教職大学院説明会を次の日程で開催する予定です。皆様のご参加、お待ちしております。

第2回：8月19日(土) 第3回：10月9日(月・祝) 両日とも14:00から三重大学において実施致します。事前申込み等、詳細につきましては、三重大学教職大学院のホームページをご覧ください。

【生徒指導の講義を担当して】

4月のガイダンスで自己紹介しました。

「趣味は、映画のシナリオ分析、それとコンサートの合い間のスピーチ分析です。担当は、生徒指導です」5月になって、院生の皆さんと談笑する機会が多くなりました。そんな時、院生さんの一言が心に残っています。「温厚そうに見えても、生徒指導の担当だから、実はバリバリ厳しんだろな、と思っていました」生徒指導という言葉は、多様な解釈がされますが、先行研究によれば、「否定的なイメージが30%」「中立的なイメージが50%」「肯定的なイメージが19%」に実践者のイメージは分かれます。いわゆる「教師集団の共通理解」が不可欠ですが、スタート地点で私たちは、見えない困難を抱えていることとなります。生徒指導イメージ

の根底にある要因のひとつとして、実践者の思い込みが挙げられます。思い込みは、強いモチベーションや信念に関わり、一方では、ストレスの原因にもなります。「不登校と思い込み」でプレゼンしていただいた野呂さんの感想を紹介します。



【授業に対する院生の感想紹介】

「生徒指導の講義を受講して」 野呂 貢一(学校経営力開発コース)

これまでの十三年間の教師人生を思い浮かべたとき、私の中で「教師とは、こうあるべき。」という考えが年々確立してきたことにより、今の自分に至ることを実感しています。しかし、その中には実際その考えが正しいものなのか、立ち止まって考える時間もなくなり、今の自分を過ごしてきたようにも思います。この教職大学院に来て、教授から「今まで背負い続けてきた荷物をちょっと横において、まわり道をしながらこれまでの自分、これからの自分、これまでの考え、これからの研究を、ある意味批判的な観点も大切にしながら、時間を有効に使ってもらいたい。」と言っていただきました。この「ある意味批判的な観点」という言葉が、マイナスなイメージとしてではなく、私を見るもうひとりの私を作ったように感じました。そこで、これまでの出会い、経験、周りからの意見などから私をつくりあげてきた私を、生徒指導の過去の実践と照らし合わせて「不登校と思い込み」をテーマに発表しました。過去に担任を経験する中で、不登校になってしまった生徒を思い浮かべたとき、それまで人間関係が良好だったり、授業や学校生活に活発な、いわゆる手のかからない生徒もいました。私の中で、「なんで？」という思いが強くなり、これらの生徒に対して深く理解するところまでには至りませんでした。

しかし、不登校を防ぐことができなかった原因の一つに、対象生徒に対する私の中での「思い込み」があったのではないかと振り返ります。「思い込み」にも二種類あり、相手に対する思い込み(ビリーフ)と自分自身に対する思い込み(セルフイメージ)があります。これ

教師の抱かえがちな「思い込み」

- ①精神的な強さが必要だという考え
- ②教職への思いや情熱
- ③自分の関わり方が正しいという信念
- ④教師なのだから何とかしなくてはならないという責任感
- ⑤能力がないと見られたくないというプライド
- ⑥周囲からの期待
- ⑦周囲に迷惑をかけたくないゆえに頑張ろうという気持ち

らを院生のみなさんのこれまでの経験や考えを出し合いながら、十五名が十五通りの思い込みを持っていることを確認し、しかしそれらがすべて見直すべきものではなく、その「思い込み」から失敗が生まれてくるかもしれないことを念頭にいたうえで、教育活動を進めていきたいと確認しあうプレゼンとなりました。教職大学院でのこのような講義の時間一つひとつが、再び教育現場に戻った時の実践力や学校づくりの一アイデアに繋がるものと実感しながら、日々を過ごすことができている。多くの方に支えていただきながら今日があることに感謝しつつ、この貴重な時間を今後も有意義なものにしていきたいと考えています。

